

📅 世界遺産×地理総合 世界遺産学習研究会

世界遺産「記憶の場」をテーマにした 地理授業の展開例

～ルワンダ共和国を事例に～



Speaker

伊藤 恵

仙台育英学園高等学校 特別進学コース教諭



伊藤 恵
Megumi Ito

仙台育英学園高等学校
特別進学コース教諭

66

教科書や文献だけでなく、
私が実際に見て・感じたことが
今日の講演のすべての土台です。

🕒 ルワンダに関する経歴と活動

2014年8月
JICA教師海外研修 ルワンダ派遣
JICA東北派遣団の団長として参加。ジェノサイドからの復興、教育現場、国際協力の現場を視察。
「百聞は一見に如かず。一見は一験に如かず。」
を痛感し、帰国後の授業実践の原点となる。

2015年～現在
「地理総合」「地理探究」での授業実践
ワークショップ形式(フォトランゲージ、
ロールプレイ等)を取り入れたルワンダの授業を展開。
生徒が「他人事」から「自分事」へ、
「sympathy(同情)」から「empathy(共感)」へと捉え直すプロセスを設計。



第12回教育実践・宮城教育大学賞 受賞時(2018年)

🕒 ルワンダに関する受賞・執筆等

【受賞】

- ・ JICA主催 グローバル教育コンクール入賞(2015年)
- ・ 第12回教育実践・宮城教育大学賞 受賞(2018年)
- ・ 第47回日教弘済研究助成論文優良賞(2018年)

【執筆】

- ・ 「2014年度教師海外研修ルワンダ編」(JICA東北 広報誌 プラザニュース・2014年)
- ・ 「平成26年度教師海外研修報告書(派遣国：ルワンダ)」(JICA・2014年)
- ・ 「地理・地図資料(「ルワンダの今」～ジェノサイドから20年～)」(帝国書院・2015年)
- ・ 「地理月報(特集：地理授業 百聞は一見に如かず。一見は一験に如かず。)」(二宮書店・2015年)
- ・ 「mundi2015年1月号(ルワンダ共和国コラム)」(2015年)
- ・ 「2014年(平成26)度国際教育・開発教育インフォメーション」(全国国際教育研究協議会・2015年)
- ・ 教科書「地理総合改訂版」(山川出版社・2025年)

【学会発表・その他活動】


- ・ 国際理解教育東北大会授業実践 宮城県代表(2014年)
- ・ ルワンダ写真展(東北工業大学一番町ロビー)(2014年)
- ・ 「『アフリカの奇跡』を考える(宮城県高等学校社会科研究発表)」(2016年)
- ・ JICA東北主催「開発教育指導者研修」講師(2018年)
- ・ 「日本地理学会2019年度春季学術大会
(「地理総合」における「国際理解と国際協力」分野の一試み)」(2019年)



「地理総合改訂版」(山川出版社)
執筆担当箇所抜粋

Motivation & Perspective

JICA研修の動機と視点

 なぜルワンダへ？

「悲劇からの復興を地理の眼で確かめたい」

ジェノサイドから20年という節目の年(2014年)。
メディアが伝える「かわいそうなアフリカ」ではなく、
実際に起きている「奇跡の復興」のリアリティを求めて。

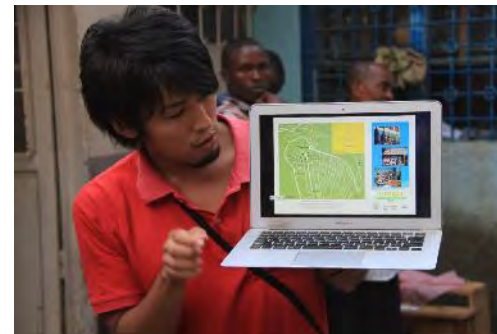
🕒 2014年8月 JICA教師海外研修にて渡航


 現地で見たいもの

📷 学校現場



👥 村落開発員



📍 タンザニアとの国境ルスモの滝



👥 水の防衛隊

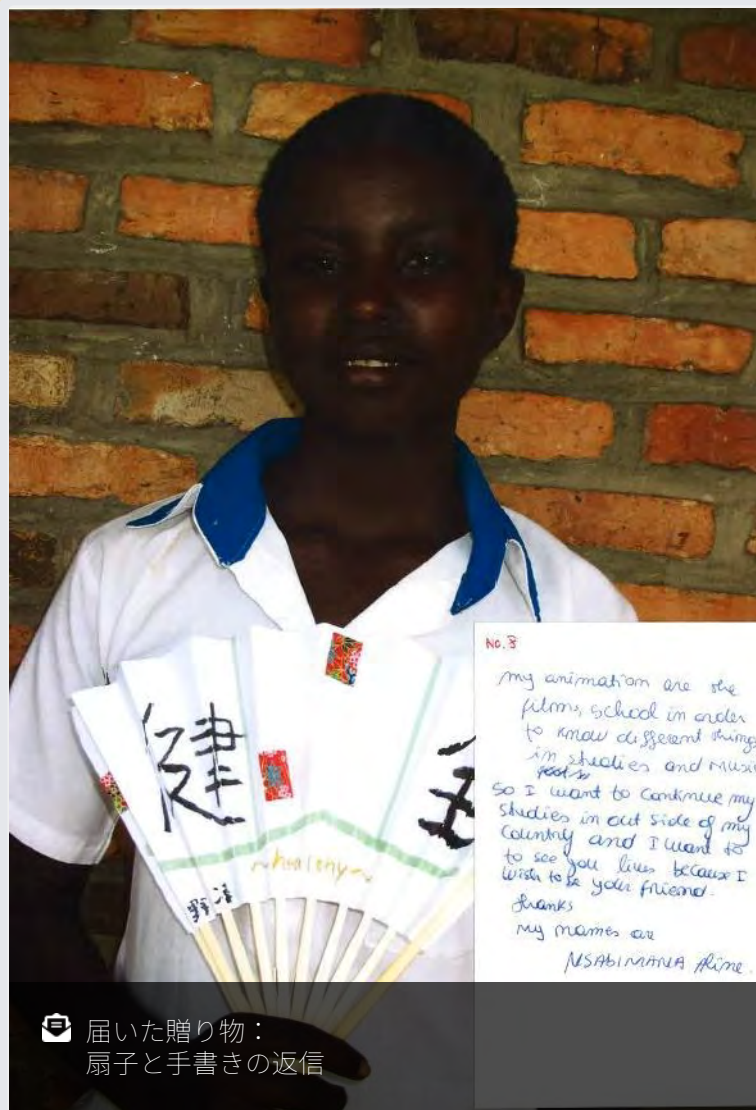

 地理的視点での着目

- ✓ 「千の丘」の地形と農業や通信インフラの関係
- ✓ 内陸国としての物流コストとICT立国戦略の関係
- ✓ 高人口密度と限られた土地資源の持続可能な利用



「ただの旅行記」で終わらせない。
生徒が思考し、議論するための
「教材」として再構築する視点。

文化交流：扇子に込めた思い



📌 日本からのプレゼント

1 手書きのメッセージ扇子

日本の私のクラスの生徒たちが、
筆で「絆」「友」「夢」などの漢字を書き入れた
扇子を作成。日本文化と想いを託しました。

2 ルワンダへ届ける

JICA研修の際、現地の子どもたちへ直接手渡し。
言葉の壁を越えて、笑顔と驚きが広がりました。

♥ 国境を越えた心の交流

後日、ルワンダの子どもたちから手書きの返信が届きました。

"I want to continue my studies... and I want to see
you live because I wish to be your friend."

- NSABIMANA Prime (From Letter)

📌 「遠い国」が「友達国」に変わった瞬間

My Educational Philosophy

百聞は一見に如かず。一見は一験に如かず。

見るだけでなく、授業で「体験(験)」に変える。
これが私の授業信条です。



生きた教材



現地で撮影した写真・録音した音・
持ち帰った実物。
教科書にはない「手触り」のある情報が
生徒の感性を刺激します。



参加型ワークショップ



一方的な講義ではなく、
生徒自身が考え、手を動かす場を創出。
フォトランゲージやロールプレイで
思考を深めます。



「自分事」への転換



遠い国の出来事を「もし自分だったら？」
と置き換える。
他人事(ヒトゴト)から自分事(ジブンゴト)へ。

OPENING QUIZ

この国を知っていますか？

4つのヒントから、ある国を当ててください。

1

 場所はどこ？

アフリカ大陸の中央・東部に位置する内陸国

2

 別名は？

「千の丘の国」と呼ばれる高原の国

3

 歴史的イベント

1994年に悲劇的なジェノサイドが起きた国

4

  最近のニュース

2023年に初めて世界遺産が登録された国

Answer

ルワンダ共和国

GEOGRAPHICAL LOCATION

ルワンダはどこにある？



位置・座標

東・中央アフリカの内陸国



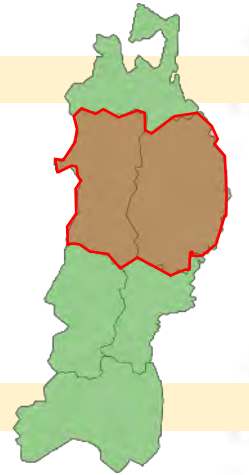
南緯1〜3度(ほぼ赤道直下)



面積と規模

26,338 km²

秋田県+岩手県とほぼ同じ
長野県(約1.3万km²)の約2倍



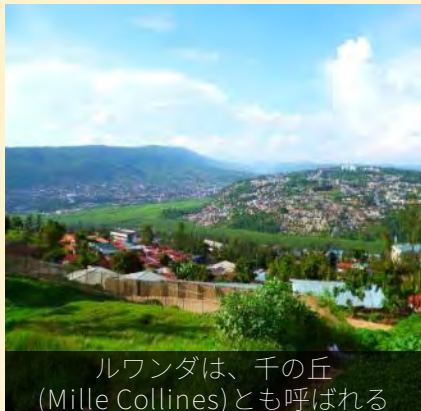
隣接する国々

- 北：ウガンダ **UG**
- 東：タンザニア **TZ**
- 南：ブルンジ **BI**
- 西：コンゴ民主共和国 **CD**

授業のポイント

- 正距方位図法で見ると、日本との距離や大圏コースも学習素材になります。内陸国ゆへの物流課題にも注目させます。

「千の丘の国」の地形・気候



ルワンダは、千の丘 (Mille Collines)とも呼ばれる



映画「ホテル・ルワンダ」の舞台 (Hotel Mille Collines)

▲ 地形的特徴

平均標高 1,500～1,600m

全体が高原状の丘陵地帯。西高東低の地勢。

最高峰 カリシンビ火山 (4,507m)

北西部ヴィルンガ山地。マウンテンゴリラの生息地。

大地溝帯と断層湖

西部はグレート・リフト・バレ(大地溝帯)の一部。

キヴ湖は美しい断層湖。

☀ 気候：赤道直下の「常春」

首都キガリの年平均気温

約19°C

気候区分 (ケッペン)

Aw / H

「意外な事実」として生徒に提示：

赤道直下(南緯2度)にありながら、高地のため一年を通じて日本の初夏のような過ごしやすい気候。

🌱 農業と特産品

ルワンダコーヒー (スペシャルティコーヒー)

ブルボン種

フェアトレード

ラトソル かつ火山灰土壌と標高差が生み出す高品質な豆。主要な外貨獲得源。



CLASSROOM ACTIVITY

もしルワンダが100人の村だったら(「データブック・オブ・ザ・ワールド」より)

📄 実際の授業ワークシートより

| 項目 | 人数 / 割合 | 特徴・背景 |
|--|-------------------------------|--|
|  年齢構成 | 41人 (14歳以下) | 非常に若い国。ジェノサイド後のベビーブーム世代が成長。 ※日本は12人(2022年) |
|  産業 | 91人 (農業従事者) | 大半が小規模農家。コーヒー・紅茶・除虫菊などが主要換金作物。 近年はICTサービス業への移行を目指す。 |
|  政治参加 | 61% (女性議員比率) | 世界最高水準(世界1位)。 ジェノサイド後の復興を女性が主導した歴史的背景とクオータ制。 |
|  民族構成 | フツ: 85人 ツチ: 14人 トゥワ: 1人 | かつての植民地政策で固定化された区分。 現在は「私はルワンダ人」として統合推進。 |

💡 数字が語るリアリティ

経済成長率

7~8 %

「アフリカの奇跡」と呼ばれる高成長

国際貧困ライン以下

63 人

成長の裏で残る格差(1日1.9ドル未満)

💬 授業での狙い

統計データを「村」の人数に置き換えることで、生徒は数字を「リアルな人間の姿」として想像しやすくなります。特に女性議員比率の高さは生徒に驚きを与えます。

BLOCK II SUMMARY

地理的な「見方・考え方」から見えてくる「ルワンダの姿」

小国・内陸・高原という地理的制約と可能性



「千の丘」の地形

小国×内陸×高原。
限られた国土に多くの人々が暮らす高
密度社会。



熱帯高地の恵み

赤道直下の「常春」気候。
ラトソルかつ火山灰土壌が育む
高品質なコーヒー栽培。



ナイル川の源流

大陸規模の水循環の起点。
下流域(エジプト等)ともつながる
「水の塔」の役割。



高人口密度と都市

アフリカ最高密度の人口。
限られた土地資源をどう管理するかが
国家の死活問題。



なぜ、この美しい「千の丘」で悲劇が起きたのか？

そして、なぜ今「奇跡の復興」を遂げているのか？
その答えを探るために、次は「歴史」の扉を開きます。

NEXT TOPIC



ブロックIII：歴史と試練



ルワンダの歴史：植民地から独立へ

🕒 15世紀～1962年

15世紀頃～

ルワンダ王国の成立

ツチ族の王(ムワミ)による中央集権的な統治機構が確立。
 農耕民(フツ)と牧畜民(ツチ)の共生社会。

#社会階層

#ウブハケ(牛の賃借契約)

1884年～

植民地支配の開始

ベルリン会議によりドイツ領東アフリカに編入。
 第一次世界大戦後(1916年～)、ベルギーの委任統治領へ。

1930年代～

「民族身分証」制度の導入

ベルギー当局が「分割統治」のために導入。
 鼻の高さや牛の所有数でフツ・ツチを人為的に区分・固定化。

⚠️ ここが悲劇の種となった最大の転換点

1962年

独立と「社会革命」

ベルギーの方針転換により、多数派フツが政権を掌握。
 ツチ族への迫害が始まり、多くの難民が周辺国へ流出。

→後のRPF(ルワンダ愛国戦線)結成につながる

🏠 植民地主義の遺産



COLONIE DU
 RWANDA-URUNDI
 IDENTITE

Nom: MUGABO
 O

Ethnie: **TUTSI**

DIVIDE & RULE

「民族」は生物学的な違いではなく、政治的に作られた社会的構築物。
 しかし、一度IDカードに記載されると、それが生死を分けるレッテルとなった。



授業のポイント

「なぜ隣人同士が殺し合ったのか？」を理解するには、植民地時代に埋め込まれた「分断統治(Divide and Rule)」の構造的背景を知ることが不可欠です。

THE TRAGEDY

1994年 ジェノサイド(大量虐殺)

📅 1994年4月7日～7月中旬

わずか **100日間** で
 推定 **80～100** 万人

☠️ 当時の人口の約10%～14%が犠牲に

※隣人、友人、家族までもが殺し合う極限状態

※仙台市の人口とほぼ同じ

標的とされた人々

- 🎯 ツチ族(Tutsi)
- 🎯 穏健派のフツ族(Hutu)
- 🎯 トゥワ族(Twa)の一部

終結

RPF(ルワンダ愛国戦線)が全土を掌握し、虐殺を停止させる。

🎧 メディアの武器化

ラジオ局(RTLM)が「ゴキブリを殺せ」「高い木を切れ」と連日扇動。
 識字率の低い農村部でラジオは絶対的な情報源だった。

🔊 伊藤授業：実際の音源を使用

🌐 国際社会の不介入

国連PKOは人員削減され機能不全に。
 主要国は「ジェノサイド」という言葉の使用を避け、介入を躊躇した。

🎬 映画「ホテル・ルワンダ」を視聴

🗣️ 授業の問い

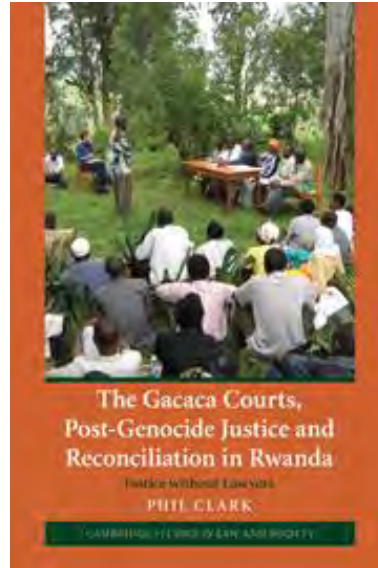
「なぜ世界は止められなかったのか？」

遠い国の出来事ではなく、現代のヘイトスピーチやネット上の扇動と地続きの問題として捉えさせることが重要。

※1994年 ユーゴスラビア紛争

ガチャチャ裁判と和解の歩み

🔪 ガチャチャ裁判 (Gacaca)



伝統的な地域共同体裁判の現代的応用

「ガチャチャ」とは「草の上」という意味。村人が草の上に集まり、問題を話し合っ解決する伝統的な習慣をジェノサイドの裁きに応用。

処理件数

約195万件

(2002-2012)

参加者

地域住民全員

証言者・判事

- ✔️ 真実の究明：誰が、どこで、何をしたか
- ✔️ 罪の告白と刑の軽減：社会奉仕活動への転換
- ✔️ 通常裁判所では100年以上かかる案件を10年で処理

🔄 共生への険しい道

“ 加害者と被害者が隣り合って暮らす

刑期を終えた加害者が村に戻り、被害者遺族と共に生活する。「赦し」と「共生」がなければ国は立ち行かないという現実的選択。

📷 私はルワンダ人

「フツ」「ツチ」という民族区分を公的な場から排除し、すべての国民が「ルワンダ人」という一つのアイデンティティを持つことを目指す国民統合運動。



👥 ウムガンダ(Umuganda)

毎月最後の土曜午前中に行われる全国民参加の奉仕活動。清掃や修繕などを通じて、コミュニティの再建と結束を図る。



🗣️ 比較地理・公民：南アフリカの「真実和解委員会(TRC)」との比較学習も有効

生徒の声：私たちはどう行動するか

授業内ワーク「クロスロード」やふりかえりシートに記された、生徒たちの等身大の言葉

もし自分があの場にいたら...
ラジオから流れる言葉を信じてしまうかもしれない。
情報を鵜呑みにしない力が必要だ。

高校2年生(男子)

メディアリテラシーに関する議論より

結局、戦争もヘイトスピーチも
『倍返し』の繰り返しではないか。
赦すこと、対話することが必要だ。

高校2年生(女子)

「ガチャチャ裁判」学習後の感想より



💡 授業の成果：「他人事(タニンゴト)」から「自分事(ジブンゴト)」への転換

World Heritage Registration 2023

2023年、ルワンダ初の世界遺産誕生



第45回世界遺産委員会

開催地：リヤド(サウジアラビア)
開催年：2023年9月

長年、世界遺産登録件数がゼロだったルワンダから、「自然遺産」と「文化遺産」が同時に登録されるという快挙を達成。

★ 登録の意義

- ジェノサイドの悲劇から30年を経て、平和と安定を取り戻した国の姿を国際社会に証明。
- 「マウンテンゴリラ」一本足打法からの脱却。エコツーリズムとダークツーリズムの両輪へ。
- 固有の生物多様性と、忘れてはならない負の記憶が、人類全体の財産として認められた。

🌳 世界自然遺産

ニユングエ国立公園

Nyungwe National Park

アフリカ大陸で最も古く、最も多様な生物が生息する山岳熱帯雨林の一つ。チンパンジーをはじめとする13種の霊長類や、多数の固有種が生息する生物多様性のホットスポット。



🏰 世界文化遺産

ジェノサイドの記憶の場

Memorial sites of the Genocide

ニヤマタ、ムランビ、ビセセロ、ギソジの4つの追悼施設。1994年のジェノサイドの犠牲者を追悼し、否定論(デナイアル)に抗い、次世代への教育と予防のための「生きた証言」。



メモリアルを訪れて(現地の空気)

📷 2014年 JICA研修にて撮影



キガリジェノサイドメモリアル

🏠 入口アーチ

ここから「記憶の旅」が始まる。首都キガリの追悼拠点。



展示室での学び

👁️ 展示見学

歴史と向き合うJICA研修団。静寂の中で事実を直視する。



犠牲者の写真

📷 記憶の証言

奪われた「普通の日々」。一人ひとりに名前と人生があった。



JICA教師海外研修団

👥 現地訪問

現地で何を感じたか。この経験をそれぞれの教室へ持ち帰る。

⇒ 静寂と「不在の存在感」

現地に立つと、鳥のさえずりさえ聞こえるような静けさに包まれます。しかし、写真や展示を前にすると、かつてそこに生きていた人々の「気配」が強烈に迫ってきます。

「教科書で読む『100万人』という数字が、一人ひとりの『人間』の集合体であることを、肌で感じる瞬間でした。」
- 研修レポートより

🗣️ 授業での配慮(センシティブな内容)

- ✔️ 衝撃の緩和：
遺体の写真は極力避け、衣服や建物の写真を中心に提示。
「見せること」が目的ではなく「考えさせること」が目的。
- ✔️ 事前予告(Trigger Warning)：
強いショックを受ける可能性があることを事前に伝え、退室の自由も保障する。

SITES OF MEMORY

なぜ『悲劇』を世界遺産に？

 比較と考察

| | | |
|---|---|--|
|  価値の所在 | <p>倫理・人権の普遍的価値</p> <p>従来の「建築的・芸術的美しさ」ではなく、そこで起きた出来事と、それが人類に突きつける倫理的な問いそのものを価値とする。</p> | <p>「負の遺産」としての警鐘</p> <p>人類が犯した過ちの証拠。アウシュヴィッツ(人種差別による絶滅政策)、広島(核兵器の破壊力)など、二度と繰り返さないための警告。</p> |
|  登録の目的 | <p>忘却の防止と和解</p> <p>生存者が加害者と共に生きるための基盤。「否認主義(ジェノサイド・デナイアル)」に対抗し、事実を歴史に刻むこと。</p> | <p>平和への希求</p> <p>悲劇的な記憶を風化させず、後世に伝え続けることで、恒久平和の実現を願うシンボルとして機能する。</p> |
|  表象のあり方 | <p>「不在」と「証言」</p> <p>遺体、衣服、遺品をそのまま展示するなど、生々しい証拠を重視。建物自体よりも、内部に残された痕跡が主役となる。</p> | <p>遺構の保存</p> <p>原爆ドームやガス室跡など、破壊された建造物や施設そのものを「証人」として保存・公開するアプローチ。</p> |



授業のポイント：普遍的価値の再定義

生徒には「なぜ美しくない、悲しい場所をわざわざ世界遺産にするのか？」と問いかけます。それは、「美しさ」だけが遺産ではなく、「人類が共有すべき教訓」こそが普遍的な価値を持つという、世界遺産概念の進化を理解させる絶好の機会です。

Voice of Survivor

忘却は第二の虐殺である。

"Forgetting is the second genocide."

否認主義への対抗

「虐殺はなかった」「自然発生的だった」という歴史修正主義(ジェノサイド・デナイアル)に対し、証拠と記憶で対抗し続ける重要性。

学校教育カリキュラム化

ルワンダでは歴史教育を必修科目として導入。次世代が「なぜ起きたか」を学び、批判的思考力を養うことで再発を防ぐ。

追悼週間(クウィブカ)

毎年4月7日から始まるKwibuka(想起)。国民全体で喪に服し、記憶を共有する期間。国全体が「記憶の場」となる。

学ぶことは、単なる知識ではなく「行動への準備」である。

VALUE CREATION CYCLE

記憶の場がもたらす循環



KEY CONCEPT

負の遺産を未来の価値へ

**!** 負の遺産の転換

単なる「悲劇の跡地」ではなく、未来に向けた教育装置として機能させることで、負の歴史を正の価値(平和構築)へと昇華させる。

🎓 次世代への継承

経験していない世代(ジェノサイド後生まれ)が、歴史を「自分事」として捉えるための学びの場となる。

👊 否認主義への対抗

「虐殺はなかった」とする歴史修正主義に対し、動かぬ証拠(Sites of Memory)として真実を守り続ける。

TEACHING DESIGN

授業デザイン全体像(8時間+α)

 地理×総合的な学習の時間

| 時限 | フェーズ | テーマ・内容 | 主な手法・ワークショップ |
|-----|------|-----------------------------|-----------------------------------|
| 1 | 導入 | ルワンダの地誌 地理的基礎・イメージ | フォトランゲージ レディネスチェック |
| 2 | 理解 | ルワンダの文化・社会 統計と文化比較 | もし100人の村だったら ちがいのちがひ |
| 3-5 | 深化 | 歴史とジェノサイド 倫理的問い・当事者性 | 映画「ホテル・ルワンダ」 紙芝居 クロスロード |
| 6 | 展開 | 現代のルワンダと復興 政策選択・意思決定 | ダイヤモンドランキング ロールプレイ |
| 7 | 接続 | 国際協力と日本の役割 JICA活動・キャリア教育 | 現地インタビュー映像 ゲストスピーカー講演 |
| 8 | 総括 | まとめ・振り返り 学びの言語化・行動宣言 | 付箋ふりかえり 意見発表・宣言 |
| +α | 実践 | 文化祭・課外活動 アウトプット・社会貢献 | ルワンダカフェ(フェアトレード) 生徒による授業 |

 授業の軸

CONCEPT 1

「他人事」から「自分事」へ
遠い国の出来事を身近な問いに変換

CONCEPT 2

リアリティの追求
本物の写真・映像・物品を使用

CONCEPT 3

対話による深まり
正解のない問いに向き合う時間

 時間配分

地理単元だけでなく、総合的な学習の時間と連携することで、十分な深掘りと対話の時間を確保。教科横断的な学びを実現。

フォトランゲージ：写真から読み解くルワンダ

📷 「事実」と「背景」を想像する



👥 更生への道：囚人のボランティア

オレンジ色の服を着たジェノサイドの加害者は、早朝から日没まで人目につきながらボランティア活動に従事。社会奉仕を通じて償いと更生を目指している。



🛡️ 治安回復の象徴：警察官

ジェノサイド以降、警察の権限が強化され、治安維持が徹底された。「汚職がゼロになった」と言われるほど規律正しく、安全な社会基盤を支えている。



🤝 和解の実践：共同経営の養豚場

かつての敵同士であった加害者と被害者が協力し、一緒に養豚場を経営。経済活動を通じた「共生」の実践が、地域の絆を再生させている。



🎭 悲しみをHappy & Strongに！！


女性初のドラムグループによる伝統芸能のパフォーマンス。心の傷を抱えた女性たちが、力強い演奏とダンスを通じてエンパワーメントし合っている。

フォトランゲージ(後編)：写真から読み解くルワンダ

 「事実」と「背景」を想像する

5




 ICT立国：若者が牽引する未来

ルワンダは「アフリカのシンガポール」を目指し国家ICT戦略を推進。若者たちがテクノロジーを活用し、ビジネスや社会課題の解決をリードしている。

6




 温かな歓迎：ホームステイでの交流

外国人を温かく迎え入れるルワンダの人々。控えめで優しい国民性は日本人とも親和性が高く、家庭の中での交流が心の距離を縮める。

7




 女性の自立：サイザル麻工房

ジェノサイドで夫を亡くした未亡人たちが、伝統的な編みカゴ作りで生計を立てる。明るく力強く生きる姿が、コミュニティを支えている。

8



 未来への投資：学力選抜と寮生活

教育熱心なルワンダでは、学力選抜によって優秀な生徒が寄宿学校(ボーディングスクール)へ。規律正しい集団生活の中で、国のリーダーを育てる。

ちがいのちがい

「違い」について考え、価値観を相対化する



ルール：この「違い」はあってよい？いけない？

以下の3つの事例について、○(あってよい違い)か×(あってはいけない違い)かで議論します。

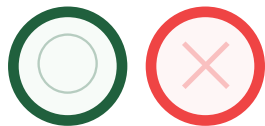
1



授業の言葉

RWANDA

JAPAN

小4から英語
母語以外で学ぶずっと日本語
母語で学ぶ

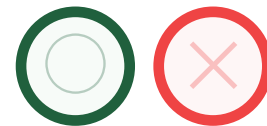
2



髪型・校則

RWANDA

JAPAN

全員坊主
厳しい校則比較的自由
多様な髪型

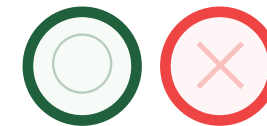
3



体育

RWANDA

JAPAN

カリキュラムに
ない
体育授業なし必修
全員参加

授業のねらい：合意形成と相対化

正解のない問いに対し、なぜそう思うのかを言語化し、他者の意見を聞くことで「違い」への理解を深める。

ワーク③ ダイヤモンドランキング(12枚版)

🔍 中心的な問い(Main Question)

「もしあなたが大統領ならば、
平和と発展のために
どの政策を優先しますか？」



(ポール・カガメ大統領)

生徒たちのアンケート結果をもとに多かったものや面白かったものを抽出

🎯 授業のねらい

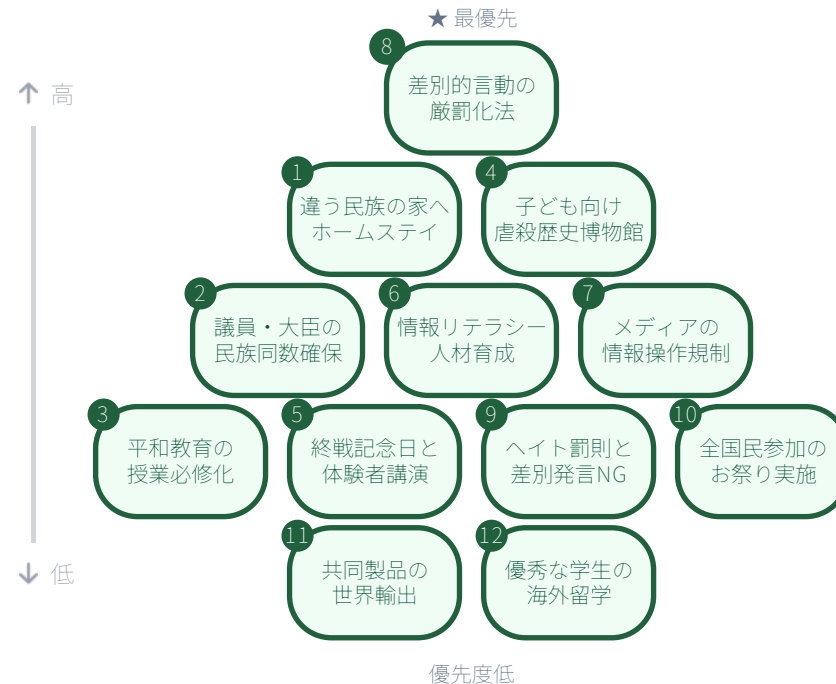
1 トレードオフの理解

資源(予算・時間)は有限であり、全てを同時には実現できないこと(トレードオフ)を体感する。

2 合意形成と対話

個人の意見を持ち寄って班で議論し、納得解(コンセンサス)を導き出す難しさと大切さを学ぶ。

実際の配置イメージ(12枚版)



実際に使用した12枚のカード

生徒の議論：「記念館も大事だけど、まず生きていくための医療や水が必要だね」「でも、過去を忘れたらまた戦争になるから教育が最優先じゃない？」

Student-Led Ripple Effects

生徒への波及効果

Action & Outcome

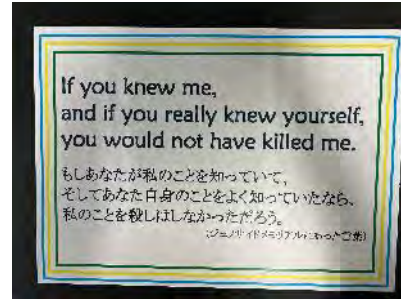
1



文化祭での発信

展示・対話ブースの運営

- ただ写真を貼るだけでなく、来場者に「問い」を投げかける対話型ブースを設置。
- 生徒自身がファシリテーターとなり、学んだことを自分の言葉で語りかける場を創出。



2



中学生向けワーク実施

「教える」ことによる学びの深化

- 近隣の中学生やプレスクール生を対象に、ルワンダを題材としたワークショップを実施。
- 紙芝居やクイズを作成し、次世代へ「知ることの大切さ」を伝える主体へ成長。



3



フェアトレードと寄付

経済活動を通じた支援

- 文化祭で「ルワンダカフェ」を運営し、フェアトレードコーヒーを販売。
- 売上はNPO法人「ルワンダの教育を考える会」を通じ、現地学校の給食プログラムへ寄付。



4



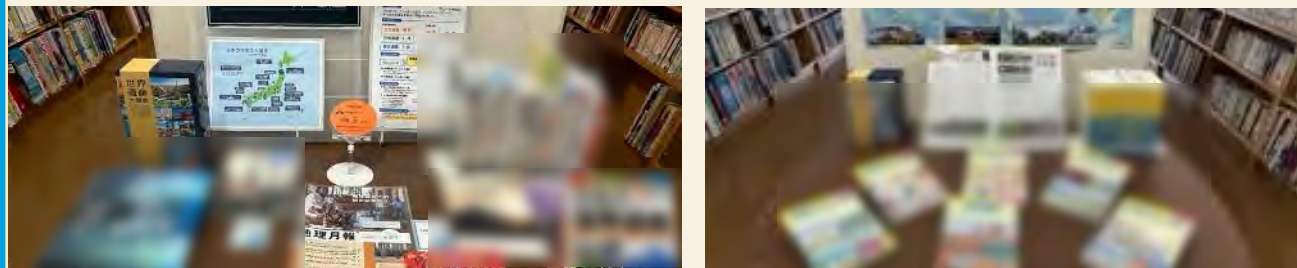
探究テーマへの発展

個人の関心とグローバルの接続

- 「ジェンダー平等」「平和構築」「環境保全」など、ルワンダから得た問いを自身の探究学習テーマへ接続。
- 進路選択(国際協力、教育学部など)に影響を与える事例も。



学びの広がり：校内での世界遺産特設コーナー・ルワンダ展示



📖 図書室の世界遺産特設コーナー

📖 世界遺産特設コーナー

（All世界遺産ポスター）

（世界遺産大事典）

（授業成果物・POP）

図書館司書や社会科の教員を巻き込み、世界遺産に関連する書籍を展示。



📍 校舎内共有スペースのルワンダ展示

📷 校内ルワンダ展示

（現地写真パネル）

（民芸品・衣装）

（解説パネル）

廊下に筆者が撮影したルワンダの写真や現地で購入した民族衣装を展示。

「日常的に触れられる環境」をつくり、生徒の自発的な探究心を引き出す。

●命の尊さ、教育と平和の大切さ

永遠瑠(カンベンガ)・マリールイズ氏

NPO法人「ルワンダの教育を考える会」理事長

👤 講師プロフィール

- 1993年 来日 青年海外協力隊の協力員として福島市で洋裁研修を受講。
- 1994年 ルワンダ内戦・難民 帰国直後に内戦勃発。隣国コンゴへ逃れ、難民キャンプでAMDA(多国籍医師団)の通訳として活動。
- 1994年12月 再来日 福島市の短期大学の聴講生として再び日本へ。
- 2000年 NPO設立 「ルワンダの教育を考える会」設立。首都キガリに「ウムチョ・ムイーザ学園」を建設。
- 現在 平和活動 日本各地で「命・平和・教育の大切さ」を訴える講演活動を展開。東日本大震災の被災経験も交え発信中。

🗨️ 学習のポイント

当事者の「生の声」を聞くことで、教科書の知識が「自分事」へと変わる。
ワークショップを通じて、平和構築の難しさや尊さを肌で感じる実践的な学び。



マリールイズ氏による講演




筆者によるワークショップ



OUTCOME & IMPACT

実践の成果(学びの可視化)

 仮説の検証完了

 最大の学習成果

他人事
Others




自分事
Ownership

“ 遠い国の出来事が、私の問題になった ”


 深い学びの定着

一方的な知識注入ではなく、ワークショップを通じて生徒自身が問いを立て、議論する力が定着。

 主体的・対話的で深い学び

 進路意識の変化

「将来、国際協力関係の職業に就きたい」「大学でアフリカ地域研究をしたい」など、具体的なキャリア選択に影響を与えた。

 人生を変える授業体験

 行動への発展

文化祭でのチャリティカフェ運営、中学生への出張授業、寄付活動など、教室を飛び出して社会に働きかける行動力が生まれた。

 社会参画の第一歩

 仮説① 検証

「国際理解・国際協力の精神」が確実に育成された

 仮説② 検証

リアリティある教材が「主体的な課題解決」を促した

Present Day Rwanda

ルワンダの今：復興と先進の融合

Vision 2050: 知識経済大国へ



エコツーリズムの高度化

「高付加価値・低負荷」戦略。
ゴリラトレッキング等の収益を地域還元し、自然保護と経済発展を両立させるモデルを確立。

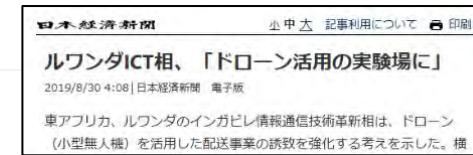
✔ SDGs 目標15 「陸の豊かさ」との直結



ICT立国・ドローン先進国

内陸国のハンデをデジタルで克服。
世界初のドローン血液配送(Zipline社)、光ファイバー網の全国整備、行政サービスのデジタル化(Irembo)。

✔ Smart Africa構想のハブ



クリーンで安全な都市運営

首都キガリは「アフリカのシンガポール」と称される。
ゴミのない街路、治安の良さ、汚職ゼロを目指すガバナンスが国際会議誘致(MICE)を加速。

✔ ウムガンダ(地域清掃)の定着



世界遺産登録による効果

2023年のダブル登録がブランド力を向上。
「悲劇の国」から「自然と文化の国」へイメージを刷新し、持続可能な観光開発の起爆剤に。

★ 国際的認知度の飛躍的向上

❗ 山川出版社「地理総合改訂版」教科書での扱い：ルワンダは「開発と環境保全」「ICTによる課題解決」のモデルケースとして、地理学習における現代的な重要テーマとなっています。

CONCLUSION

本日のまとめと授業への活用

ルワンダは地理・歴史・公民が交差する「生きた教材」です

3つのメッセージ



地理的な見方・考え方

小国・内陸・高地。
この「千の丘」という地理的条件が、国の課題と発展の形を決定づけている。



文化遺産：記憶の場

負の遺産を世界遺産へ。
悲劇を隠さず「記憶」として残すことが、未来の平和への最強の砦となる。



復興と現在

ICT立国と女性活躍。
資源のない国が「人」と「制度」への投資で飛躍する希望の物語。

授業での活用ヒント(科目別)

地理総合

持続可能な開発(SDGs)
エコツーリズムの事例
内陸国の経済発展課題

地理探究

アフリカ地誌・経済成長
水資源と国際河川
都市計画(キガリ)

歴史総合

植民地主義と国境線
冷戦後の地域紛争
ジェノサイド条約

公民

正義と和解(修復的司法)
情報リテラシー(扇動)
人権と国際貢献

THANK YOU FOR LISTENING

ご清聴ありがとうございました

仙台育英学園高等学校 特別進学コース


伊藤 恵

REFERENCES & RESOURCES

参考文献・引用資料一覧

 学術論文・出版物・報告書等

- ・ 伊藤 恵 「地理総合」における国際理解と国際協力 ルワンダを事例とした授業実践―
(日本地理学会発表要旨集・2019年)
- ・ 伊藤 恵 「2014年度教師海外研修ルワンダ編」
(JICA東北 広報誌 プラザニュース・2014年)
- ・ 伊藤 恵 「平成26年度教師海外研修報告書(派遣国：ルワンダ)」(JICA・2014年)
- ・ 伊藤 恵 「地理・地図資料(「ルワンダの今」～ジェノサイドから20年～)」
(帝国書院・2015年)
- ・ 伊藤 恵 「地理月報(特集：地理授業 百聞は一見に如かず。一見は一験に如かず。)」
(二宮書店・2015年)
- ・ 伊藤 恵 「mundi2015年1月号(ルワンダ共和国コラム)」(2015年)
- ・ 伊藤 恵 「2014(平成26)年度国際教育・開発教育インフォメーション」
(全国国際教育研究協議会・2015年)

 一般書籍・映像資料

- 世界遺産検定事務局(2025)
『すべてがわかる世界遺産大事典<下>改訂第5版』マイナビ出版
- フィリップ・ゴーレイヴィッチ(2011)
『ジェノサイドの丘<上・下>』WAVE出版
- 映画『ホテル・ルワンダ』(2004)
テリー・ジョージ監督, United Artists
- 永遠瑠・マリールイズ(2012)
『ルワンダの祈りー内戦を生きのびて』

 教材・その他

- 山川出版社(2025)
『地理総合』教科書(伊藤恵 執筆分担)
- JICA地球ひろば
「国際理解教育/開発教育教材」
- NPO法人ルワンダの教育を考える会
公式ウェブサイトおよび活動報告資料